

各地で土砂崩れや浸水被害

8・23水害 時間雨量1000ミリを観測

8月23日未明から県内に

降り続いた大雨で、市内では各地で土砂崩れや浸水被害などが発生。飛騨川の増水などで避難勧告も出されるなど対応に追われ、自然災害の恐ろしさを知る1日となりました。

【総務部総務課】

記録的な大雨が襲う

8月23日、秋雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、下呂付近では7時24分に時間雨量が1000ミリに達し、岐阜地方気象台は「記録的短時間大雨情報」を発表。萩原地域では20時までの雨量が2500ミリを超える記録的な大雨となりました。

市内各地で水路の氾濫による床上浸水が発生し、また雨量規制や土砂崩れ等で通行止めも相次ぎ、金山町弓掛のキャンプ場では、県道の土砂崩れと雨量規制によって一時利用客ら48人が孤立する事態となりました。

今回の大雨では、市は7時45分に災害対策本部を設置し、非常体制を取るとともに、市内すべての消防団員に出勤を要請し、現場対応や警戒にあたりました。

10時10分には飛騨川の水位（萩原町上呂）が急上昇し、避難判断水位に達したため、市では洪水の危険が高い

と判断。飛騨川沿いの地域

4680世帯、1万2348人に洪水による避難勧告を、12時25分には萩原地域の4地区952世帯、2016人に土砂災害による避難勧告を発令しました。これらの勧告や自主避難などで24日までに10か所の公民館等に86人が避難をしました。

非常時の対応

今回の災害は、短時間に大量の雨が降ったことで谷や水路が氾濫し、小規模な土砂災害がいたるところで発生するという、集中豪雨の恐ろしさを目の当たりにしました。また、避難勧告や情報伝達のあり方、避難所の運営など行政の対応にも課題が見つかりました。

山間地に暮らす私たちにとって土砂災害と水害は避けて通ることはできない問題です。日頃から危険箇所を点検し、非常時には早めの行動ができるよう準備しておくことが大切です。

■浸水被害

浸水区分	萩原	小坂	下呂	金山	馬瀬	計(棟)
床上浸水	1	1	2		1	5
床下浸水	22	17	33	4	5	81

■被害状況（9月5日現在）

区分	萩原	小坂	下呂	金山	馬瀬	計(か所)
道路	12	7	9	7	9	44
河川・水路	36	2	32	2	7	79
用水路・排水路	15	6	1	4	3	29
農地	5	1	1	1		8
林道	24	8	15	20	6	77
治山	2	2	1	2	8	13
計	94	26	59	34	33	250



道を通る土砂や水（小坂・大垣内地区）



市街地にあふれ出る土砂と水（萩原・花池地区）



山から流れ出した土砂で埋まったJR高山線踏切（萩原・西上田地区）



冠水したJR高山線高架橋下の市道（下呂・幸田地区）